
ペルソナ 4 の世界へ...

モアナラニ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペルソナ4の世界へ…

【Nコード】

N0550Z

【作者名】

モアナラニ

【あらすじ】

この作品はペルソナ4の二次元創作小説です。
…ごく普通の生活を送っていた藤咲彩花は、突然ペルソナ4の世界に飛ばされてしまう。「なんか良く出来てるな…、ま、いつか！」
目指せ！一人も欠けずにハッピーエンド！
ネタバレをしていますので、あしからず。

0・0 自己紹介（前書き）

こんにちわー。モアナラニですー。

小説初投稿のために、

誤字、脱字などがごろごろしてると思います…（・ロ・:）
なるべく無いようにしますが、字が間違っていたらご指摘お願いします。

一ヶ月を目安に一話ずつ投稿していきますので、よろしく願います！

0 - 0 自己紹介

今作の主人公設定です。

フジサキ
アヤカ
藤咲 彩花

若干オタク気味の18歳。（高3）

ペルソナ3、ペルソナ3フェス、ペルソナ4、ペルソナ3ポータブル完全攻略済み。

ペルソナ4の世界に来てからは高2として生活するため、17歳と言う事になっている。（そのため、学力は天才）

制服の着崩しは無いですが、制服の上にポンチョのようなものを羽織っています。

ステータス

学力…天才

寛容さ…救世主

根気…半端ない

勇気…漢

伝達力…言霊使い

魅力…美しき悪魔

…要するに無敵ってことです。

ペルソナステータス

ペルソナ名…瀬織津比売 セオリツヒメ 速佐須良比売 ハヤサスラヒメ

初期レベル…25

アルカナ…女帝

力21・魔25・耐19・速20・運28

HP217・SP264

外見は彩花がペルソナを出した時に追加していく予定。

…こんな感じです。

彩花の性格は優しめ、だけど毒舌、自分に自信を持っている女の子です。

武器は斧です。（持ち手を除いて縦23cm横25cm?持ち手を入れれば縦39cm?ぐらい）

髪色は赤毛に近い茶色で、目の色は薄茶です。（ちょうどP4の主人公の目の色を灰から茶にした感じ【多分】）

髪型はハーフアップでふくらはぎに髪が届くぐらいの長髪です。身長164cm、体重は秘密…です。

P4の主人公の名前は瀬田^{セタ} 総司^{ソウジ}です。

これから頑張りますので、よろしくお願いします！

0・0 自己紹介（後書き）

更新完了クマーーーーー！
感想待ってるクマー！

1 - 1 始まりは突然に（前書き）

自己紹介の後書き…はっちゃけてた…？

かーんーそーうーまーっーテーマ スー

…え、ああ、はい。第一話です。短いです。かなり。（。口。）

1 - 1 始まりは突然に

「…、なんで私はここにいるんだろう？」

2010年、6月9日、曇り。

別に、記憶喪失になったわけではない。おかしいのだ。

よく考えてみたら、こんなことになっている理由がぼんやりわかってきた。

そう、あれは確かほんの2分前ぐらいだったと思う。

私は、定期テストが終わってゲームを解禁になったため、大喜びでペルソナ4をやっていた。

気が付くともう遅い時間になっていたため、ゲームをやめ、寝ようとしたが、その前にごみを捨てに行った。

階段を降り、ごみ捨て場にごみを捨てる。

今思うとなぜごみを捨てに行こうとしたのかわからない。

でも当然、何も起こらないはず、だった。

捨てて、もうそろそろエンディングなペルソナ4の続きをやる、そのはずだった。

…起こってしまったのだ。

ふさがれる口に、私は驚きの感情しか出なかった。

「や……、み……けま……。」

何か、人の声が聞こえた気がした。

「こっから先の記憶がないんだよなあ……」

彩花は大きなため息をついて、ゆっくり歩きだした。
とにかく、状況を整理しなければ…

・とりあえず、自分がいた世界ではなさそう

・日にち、時間が違う

わからない事は…

・ここどこ？

・もしも、違う世界ならこれからどうやって過ごす？

「…、なんか、ペルソナ4の世界に似てない？」

なんとなく、そう思った。

私は立っている場所から周りを見渡した。ふむ、似てなくもない。

商店街が見える。左に見えるのはいだいだら…だろう。

「ほんとにどうしよう…」

そうつぶやいた時、突然電子音が鳴り響いた。

1 - 1 始まりは突然に（後書き）

なんかほかの方よりもかなり短い気がする…
もう少し頑張ろう。(。v。;)うん。
感想待ってます…

1 - 2 思えば今（前書き）

ちよっぴり時間が空いてしまった…
でも…でも！データが消えたんだもの…
現実逃避中でした！

1 - 2 思えば今

「うわっ！」

ピリリリリリ！

「なんだ、携帯か…」

あれ？なぜに携帯？… バッグも…、ああハイ、そうゆう設定ね。

「メールか、え…『お母さん』！？」

違う！私はいつもママ、と呼んでいる！

「ってそうじゃないし！」

「もう八十稲葉には着いた？荷物に地図があるから、赤い丸のついでる場所に行つてね。話は通してあるから？ ごめんね、急に一人で一年暮らせだなんて、でも彩花なら大丈夫ね。でも、八十稲葉高校だっけ？そこ、なんか連続殺人事件あるみたいだから気を付けてね。ああ、あとは…、2年に進級なのよね。制服かわいかったわあ？また連絡するわネ。」

…大丈夫じゃないいいいい！

「八十稲葉…じゃあやっぱりペルソナ4の…、日にちは6月9日か…ふむ。」

「…うん、とりあえず、行こう！」

このままでは何も始まらない、とにかく落ち着いて衣食住を確保しなければ！

はい、迷いました！

「…どうしよう…こっちなあ？」

怪しい、怪しすぎる。でもこの道な気がする。

…やはり方向音痴の私に地図と寮の写真だけと言つのはさすがに無理がある。

「はあ…」

「あの、大丈夫ですか？」

！ジモティ なんだ！助かったー！

「あ…、ちよつと道に迷っちゃって…、ここなんですけど、…！！」

P4 主人公だ！！！！

「？良ければ案内しますよ。」

「え、あ、お願いします！」

主人公：いい人だ。

というか名前はどつするんだ？候補はツキモリコウスケ月森孝介、セタソウジ瀬田総司、ナルカミコウ鳴神悠
ぐらいだろうけど。

「あの…着きましたよ？」

「え？あ！ほんとだあ！」

写真と見比べてみると、確かに同じだ！

「ありがとうございます！」

「いや、お礼を言われるぐらいじゃないですよ。」

あ、そだ名前名前。

「あの、私藤咲彩花って言います。あなたは？」

「俺は瀬田総司。よろしくお願いします。」

「うん、よろしくね！（瀬田総司か…漫画版ね。）」

「あ、そうだ！敬語使わなくていいよ、同い年だと思うし。（実際は違うけど。）」

「え、ああ。（年上だと思ってた…）」

「私、明日から八十稲葉高校2年に転入するの。その制服、八十稲葉高校のでしょう？」

「うん。」

「じゃあ、改めてよろしくね瀬田君！」

握手のお手手！よし！やばい、チョー嬉しい！！

シャアアン！

「！（コミュ！？私もあるんだ！）」

＜瀬田総司は『世界』、ワールド『藤咲彩花』コミュニティを手に入れた！

「世界^{ワールド}か…ペルソナ4じゃ出てこないコミュだな…」

「え？」

「うっん、なんでもない！じゃあねー！（びっくりしたー、気づかれたかと思った…）」

1 - 2 思えば今（後書き）

おおお、やっと話がつながってきた――！
よし、頑張ろう！

感想、一言待ってまーす！

1 - 3 天国 or 地獄？（前書き）

… またデータ消えた…
いいです、めげません。
… 頑張るもん！

1 - 3 天国 or 地獄？

「おおー！」

赤いドアを開けると前には：

「結構きれいな建物なんだなー」

薄い赤の壁紙、白い天井、赤い絨毯が敷かれた床。

「てか、宮殿？」

「あらあ、そう言ってくれると嬉しいわあ？」

「誰ですか？」

「落ち着いてるのねえ、そうゆう子嫌いじゃないわあ。あたしは^{オオ}大^{タケ}竹^{ユミ} 友見。この『ラ・フルール』の大家よ」

「（大家さんか…。びっくりさせないで下さいよ）私はこれから一年ここに住まわしてもらう、藤咲彩花です。」

「ああ、はいはい、話はあなたのお母さんから聞いてるわ。あなたの部屋はね、ここなんだけど…地図だと分かりにくいから実際に案内するわあ、ついてきて」

「あ、はい。」

「ここよ。202号室。鍵はこれで、合鍵がもう一個あるからなるべく失くさないでね？荷物は適当に置いといたからね。それと、ここの簡単な説明書は今わたすわあ。…あ、あつた。はい。」

「ありがとうございます。」

「うーん、硬いわねえ。敬語なんて使わなくていいわよあ。だってあたしまだ20才だもの。3つしか変わらないじゃない！友見でいいわ？あとは、名前が彩花なんだから…、そうだわ！彩ちゃんでもいいかしら？」

「…は、じゃなかった、うん！よろしくね、友見！」

「ええ、よろしく。っと…、少し話が長くなりすぎたかしら？今日
は荷物の整理もあるしもうそろそろ準備したほうがいいわね。学校
は来週からでいいらしいからね？」

「わかった、じゃあ、また。」

「（大竹友見…20歳って…ほんとなのかな？でも、いい人だね！）

」

ガチャリ

「わぁ…すごい、広い！」

1 - 3 天国 or 地獄？（後書き）

あとで0 - 0に付け足しますが、彩花は毒舌じゃなくなりそうです…。

不思議ちゃん系？てゆうかめっちゃ冷静な感じになりそうww

彩花のシャドウ出すか迷い中……。良ければ一言で出すか出さないかヒントをくださるとうれしいです。

1 - 4 光・ヒカリ・ひかり（前書き）

え？タイトル意味わかんないって？

スルーしてください。

いいんです。やっと主要人物だせるしね！

1 - 4 光・ヒカリ・ひかり

すごい、すごすぎる。

「広いー！」

普通のマンションに見劣りしないぐらいに。

「なんか主人公補正？」

なわけないか、瀬田君いるし。

でも、主人公補正っぽいよね。だって、すごいよ。玄関はめっちゃ広い。なんか靴箱も巨大。

「とりあえず中に……って左に道（？）があるけど右にドアがあるんですけど……」

なんか気になるので左へ行くことにした。

段差を一段上がって右へ行く。すると応接間？があった。角にキャビネット的な物がある。真ん中にはテーブル。

「つながってるんだ……。？右にドアがある。」

カチャッ

「ほう。廊下か。」

そのままなんとなく右に進む。するとまたドア。

「ドア多くね？覚えるの大変そう……」

カチャリ

「あれ？」

目の前には玄関。はっ、もしか最初にあった右にあるドアとはこのことか！

「すごい、つながってるんだ……って早く戻ろう。」

ドアを開けて廊下を小走りで戻る。そしてそのまままっすぐ進む。しばらく進むと分かれ道。まっすぐ進む道と右に曲がる道がある。

「うーん……よし、右！」

右に曲がってしばらく進むと廊下はそこで行き止まりで、右にと左にドアがあった。

「左に進もう。…て言うかすごいね、なんかこんな家見たことなんてなかったのに。ヤバ、テンションあがってきた！」

カチャッ！

「お風呂場かな？…あ、洗濯機がこんなところに！」

お風呂場（脱衣所）に入ってすぐ右には洗濯機があつて、左にはドア。

「左は…と、へえ、トイレか。」

トイレを見渡してからドアを閉めて、左にちよつと進むと前にかこがあつて右にドアがあつた。

ガラッ

「おおー、大きいバスタブ！」

中はタイル張りでシャワーとバスタブ、石鹸とシャンプーやリンスもある。

「すごい！お風呂に入るのが楽しみになっちゃうなー！」

お風呂場からでて、右のドアを開ける。するとその部屋はリビングだった。キッチンと冷蔵庫もついていて、ベランダまである。

「ほおおお…」

「…何この大きいテーブル！すごい！」

「あ、棚の上にテレビもあるんだ。」

そんなことを言っていたらきりがないのでここは省略。

キッチンのドアを閉めて左に少し進んで右に少し進むと突き当りにドアがある。

「この部屋で最後か…長かった。広すぎでしょこの家…」

カチャッ

「……お部屋だ。」

中はこじんまりした部屋だったけど、この家で一番落ち着くのはこの部屋だつて思った。

本棚があつて、私の知らない本がたくさん入っていた。壁紙は白くて、勉強机があつて、紫とピンクの絨毯が敷いてあつて、小さなテレビがあつて、奥にタンスがあつて、その横に薄紫のベッドがあつて。

自分のお部屋だつて思えた。

1 - 4 光・ヒカリ・ひかり（後書き）

少し長めに書けたので良かったです。

次は彩花の過去を書きたいと思います。

彩花のシャドウどうしよう…

1・5 いつかの話 (前書き)

更新は久しぶりです(; ;)
やっと話が進む…よかった…。

彩花のシャドウは出しません。

1 - 5 いつかの話

回想

2009年3月26日、卒業式。

「- 私たちは、未来に向かって、今、羽ばたきます。」
『羽ばたきます。』
「そして」

「彩花ー！ー！」

「うわっ！？」

いきなり友達がぶつかってきた。涙目で。

「ううー、彩花ひっ越しちゃうんでしょ…！ いかないでえー」

ぶつかってきた子は河原千春。カワハラチハルベリーショートの女子野球部。

「え、ちょ、落ちついて…」

「彩花ー？ つてうわ… 大丈夫？」

今来た子は高倉花織。タカクラカオリ二結びの女子バレー部。

「うん、私は大丈夫だけど千春が…」

「…あたしも大丈夫。」

「…そう。なら早く来て！ 岩里先輩来てるよ！」

「ほんと！？ 早くしないと、行こ、彩花！」

「あ、うん！」

先輩の名前は岩里希実。イワサトノツミポニーテールの髪が長い、高校1年。

「先輩！！」

「希実先輩！」

「岩里先輩！」

「花織、千春、彩花！久しぶりー！」

「来てくれてありがとうございます！」

「うん。ああそうだ。卒業おめでとう！」

「ありがとうございます。」

「3人と同じ高校なの？」

「あ…、花織と千春は同じなんですけど、私は違うんです。引っ越すんで…」

「…そっか。でもメアド持ってるんだし、いつでも話せるよ！会おうと思えば遠くても休み使えば会えるし。」

「そう…ですね。」

回想終了

あれからもう1年半、連絡はちょこちょこ取っていたけれど、この世界に来てしまっただけからは、もうメールもできない。暗い場所に置き去りにされた感じがした。

1 - 5 いつかの話 (後書き)

あれ、暗い…？

次は感想ですよ。へへっ

それに、すこしたったら更新します…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0550z/>

ペルソナ4の世界へ...

2011年12月31日17時48分発行